

第4回海と漁業と生態系に関する研究集会  
海洋モデルデータの水産・海洋研究への活用

日時： 2022年2月26日(土) 9:00~15:50  
開催方法： 現地開催およびWeb (Microsoft-Teams) でのハイブリッド方式  
開催場所： 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所 (横浜庁舎) 講堂  
コンビナー： 奥西 武・黒田 寛・瀬藤 聡 (水産機構・資源研)・高橋大介 (東海大)

参加希望の方は2022年2月18日迄に、①氏名、②所属、③参加方法(現地 or Web)を参加登録用メールアドレス (w-m@ml.affrc.go.jp)へご連絡ください。参加人数が多数となった場合は、人数を調整させて頂く場合がございます。

挨拶： 木村伸吾 (水産海洋学会 会長)  
9:00~9:10

趣旨説明： 奥西 武 (水産機構・資源研)  
9:10~9:15

- ① エボシガイを用いた海底電位差磁力計の漂流経路の推定 西川 悠 (海洋研究開発機構)  
9:15~9:35
- ② FRA-ROMS の出力を用いた回遊モデルによるサンマ初期漁場の予測  
寛 茂穂 (水産機構・資源研)  
9:35~9:55
- ③ 耳石の  $\delta^{18}O$  分析と海洋同化モデルを用いた小型浮魚類の回遊経路推定  
坂本 達也 (水産機構・資源研/JSPS)  
9:55~10:15

休憩 (10分)

- ④ DREAMS と双方向粒子追跡実験を用いた奄美海域産スジアラ卵仔魚の起源推定  
加古 真一郎 (鹿大院理工)  
10:25~10:45
- ⑤ 海況モデルを活用した漁場推定—日本近海とインドネシアの事例—  
五十嵐 弘道 (海洋研究開発機構)  
10:45~11:05
- ⑥ 松島湾における流れとマガキ幼生の分布予測  
白井 秀和 (北見工業大)  
11:05~11:25

休憩 (~13:00)

- ⑦ ニホンウナギの仔魚輸送シミュレーション ～シラスは泳いで川を目指す!?～  
唐木 達郎 (筑波大) 13:00～13:20
- ⑧ 陸奥湾及び噴火湾起源のホタテラーバの輸送に関する粒子追跡実験  
児玉 琢哉 (岩手県沿岸広域振興局) 13:20～13:40
- ⑨ 海洋生物の生物多様性に影響を及ぼす海水流動の影響 - 微小プランクトンとサンゴを例に  
長井 敏 (水産機構・資源研) 13:40～14:00
- 休憩 (10分)
- ⑩ 北海道沿岸における暖水性有害赤潮藻カレニア・ミキモトイの来遊機構  
嶋田 宏 (北海道立総合研究機構) 14:10～14:30
- ⑪ ケンサキイカの移動から見た天草海周辺の海流変化  
山口忠則 (九州大) 14:30～14:50
- ⑫ 総合討論 14:50～15:50

#### 開催趣旨

2000年代以降、海洋モデルの精度向上とデータ同化技術の発展により、過去から現在までのより現実的な海洋環境の再現が実現し、将来予測の精度向上が進んでいる。これにより、近年、海洋モデルのプロダクトは気象、海洋、水産分野での研究、漁業、防災、海洋保全に資する情報として広く利用されている。これまで、水産・海洋分野の海洋モデルのプロダクトを利用した研究として、仔稚魚の経験した環境の解析、魚類の産卵場・生息域の推定と予測、動物プランクトン群集の分布特性の解析、大型クラゲなどの有害生物の分布予測等が取り組まれてきた。本研究集会では、近年の海洋モデルを活用した水産・海洋研究の事例を情報共有し、今後の継続的な発展のために何が必要かを議論する。